

「第2回 西宮市都市交通会議 地域公共交通分科会」会議録

日 時：平成26年9月19日（金）15時00分～17時00分

場 所：西宮市民会館 4階 中会議室 401

議 題：1. 開会

2. 分科会長 あいさつ

3. 委員及び事務局紹介

4. 議事

(1) 協議事項

さくらやまなみバスの事業目標値、運行見直し基準等について

(2) 報告事項

生瀬コミュニティ交通について

5. その他

6. 閉会

○委員出席者

役職名	氏 名	所 属 名	代理出席者
分科会長	松村 暢彦	愛媛大学大学院 理工学研究科 生産環境工学専攻 教授	
委員	酒井 慶子	公募委員	
	立山 弘和	公募委員	
	久保田 泰正	西宮コミュニティ協会 副理事長	
	土井 勉	京都大学大学院 工学研究科 安寧の都市ユニット 特定教授	
	楠田 悦子	モビリティコンサルタント ジャーナリスト	
	河崎 浩一	阪急バス株式会社 取締役自動車事業部長	
	野口 一行	阪神バス株式会社 業務部長	業務部 係長 田中 勝
	松本 浩之	みなと観光バス株式会社 代表取締役	
	白井 康民	兵庫県交通運輸産業労働組合協議会 阪神地域協議会議長	
	中澤 秀明	公益社団法人兵庫県バス協会 専務理事	
	鈴木 康弘	一般社団法人兵庫県タクシー協会 (推薦委員：阪神タクシー株式会社 取締役営業本部長)	
	橋本 亮	国土交通省 近畿地方整備局 兵庫国道事務所 調査課長	
	高瀬 徹	兵庫県 阪神南県民センター 西宮土木事務所 道路第2課長	欠席
	丸岡 五郎	西宮市 土木局 道路公園部長	
	潮見 竜一	兵庫県西宮警察署 交通第1課長	
	清水 俊博	国土交通省 神戸運輸管理部 兵庫陸運部 輸送部門 首席運輸企画専門官	運輸企画専門官 和田 治
松本 元生	兵庫県 県土整備部 県土企画局 交通政策課長	交通政策課 副課長 成田 徹一	
野崎 敏	兵庫県 阪神南県民センター 西宮土木事務所 所長補佐 (企画調整担当)		
青山 弘	西宮市 都市局 都市計画部長		

議事内容

(1) 協議事項 さくらやまなみバスの事業目標値、運行見直し基準値等について

・事務局よりさくらやまなみバスの概要について説明した後、さくらやまなみバス利用促進協議会の会長よりさくらやまなみバス利用促進協議会での取組みと事業目標値、運行見直し基準値等について報告。

(委員) 目標値・基準値を決められたことは素晴らしいことだと思う。イベント系の利用促進が多いが、地域の人が普段の生活の中で、車からバスへ転換できるかもしれないと思えるような取組みを目標値達成のプロセスに組み込むと、よりわかりやすいと思う。イベントを開催すること以外でも、いろんな手法を組み合わせることで地域にとって無理のない活動を続けていただけたらと思う。

(さくらやまなみバス利用促進協議会)

山口地域は高速道路が多く、車利用の生活スタイルが発展してきた地域で、現在は家族の数だけ車があるような状況である。バスを優先し、利用してもらうまでの結果がでていないのが悩みの一つである。バスは目的ではなく手段なので、自治会の活動をとおしてバスを利用してもらうようお願いしているが、家族で移動する時は車で、買物へ行く時は車で、と最終的には便利なほうを選択している。その人たちがバスを利用してくれるように利用促進は継続していく。

(委員) 利用促進はバスだけでなく、まちづくりや教育なども含め、一体的にバスをどうしていくか協議するほうがよい。一度さくらやまなみバスを利用したが、子供達が多く利用しているので、その子供達はすでに愛着をもってくるのではないかと思う。その子供達が家族に対し、バスを利用しようと呼びかけるような形での利用促進も考えてはどうか。

(委員) 子供向けに学校 MM などの取組を実施している地域の子供達は、バスを利用することに抵抗がないと思う。一方、バスを利用したことがない高齢者等は乗り方がわからないため、バスを利用することに抵抗を感じているケースがある。バスを利用してみたら便利だと感じることもあるため、一度利用する機会を設けるのも一つの案だと思う。

(委員) 市の方へ質問したい。目標値の収支比率を 70% に設定しているが、これは 70% を維持している限りはさくらやまなみバスを運行し続けていくと保証された目標値なのか。

(事務局) 今回設定した目標値は、利用促進を取り組んだ結果として達成できたら良いな、

達成のためにそれぞれが何をしたらいいのか、それがどう効果に結びつくのかをわかりやすくするため、山口地域の各世帯の方が年 1 回新たに南部へ出かけることを目標として掲げた数値であり、利用促進をしていくにあたっての目標値となっている。

(委員) 会長が熱心に取り組み、地域を引っ張っている間はよいが、そういったことがなくなっても継続していくために、もう少し自然体でも成り立つように市もバックアップし、地域が安心して利用促進に取り組めるとよいと思う。

(さくらやまなみバス利用促進協議会)

さくらやまなみバス事業評価委員会では、継続は妥当との答申をいただいた。収支比率や輸送人員が大幅に減少すると事業の見直しを行うと条件がついているが、現在の水準を維持しながら少しでも人数が増えて、赤字が改善できたら存続すべしであるという結論として私自身は受け取っている。できる限りそんな形が継続していけるようサポートしていきたいという考え方を持って利用促進に取り組んでいる。

(委員) バスは家族以外の人との共有空間であることがメリットの一つである。車では、家族内のコミュニケーションはとれるが、バスでは家族以外とコミュニケーションがとれるなど、社会勉強になることも公共交通の魅力だと思う。公共交通の魅力を感じることができれば、バスへの利用転換につながっていくと思う。

(委員) さくらやまなみバスの趣旨として、山口地域から南部地域への交通の便の確保があると思うが、年間輸送人員の 50%弱が南部だけの利用になっている。年間輸送人員の半分近くが南部利用なので、収支にも大きく影響していると思う。南部間利用だけでなく、南部の利用や、南部から北部への利用促進も考えていかなければいけないという印象を感じた。

(事務局) 収支面からみると、収入の 6 割以上が南北間利用である。南部から北部への利用促進として、アルキナーレというハイキングイベントを開催し、山口地域の魅力を知ってもらい、再来訪してもらおう機会を設けている。また、西宮観光協会のまちたび博では、アルキナーレとともに公智神社秋祭りを案内しており、さくらやまなみバスの情報も併せて案内している。南部からの利用者は、特定の方をターゲットにするのは難しいため、様々な媒体を用いて情報提供を随時行い、利用促進を図っている。

(さくらやまなみバス利用促進協議会)

さくらやまなみバス運行の前提として、既存路線に大きな影響を及ぼさないということがある。南部への利用促進は、アルキナーレだけでなく西宮山口というHPを立ち上げ情報発信をして、アルキナーレ応募者にはさくらまつりやホテル観賞会

などの山口地域の既存イベントの案内を行っている。そういった取組みを通して、山口を訪れて、山口を歩かれて、山口のよさを私たち以上に感じて、毎年お越しいただく方が増えている。

(分科会長) 協議会を毎月開催して一生懸命バスの利用促進に取り組まれていることに敬意を表したいと思う。口で言うのは簡単だが、これだけの取組みを行うことは本当に大変であり、市も阪急バスも一緒になって取り組んでいること自体が稀な事である。他の事例で、和歌山の貴志川線では、毎月集まって会議をしている。そこでは、会議当初に前々月の利用者数や運賃収入を報告し、そこから利用促進を協議している。また、貴志川に関係する観光事業は積極的に取り入れている。今回報告された以上のことを西宮市さんや阪急バスさんのほうでもされていると思うが、このように地域が頑張っているうちに、市や交通事業者のそれぞれのところで広報活動なり、ダイヤの改善なりをやっていくことが、無理のないような形で持続していく秘訣だと思うので、引き続き目標値を達成できるよう頑張ってもらいたい。

では、さくらやまなみバスの事業目標値、運行見直しの基準等について皆さんの意見をもって議論したということで取り扱ってよろしいでしょうか。

(委員全員) 異議無し

(2) 報告事項 生瀬コミュニティ交通について

・事務局より生瀬地域の現況および「ぐるっと生瀬」運行協議会（準備会）における取組みの概要について説明した後、「ぐるっと生瀬」運行協議会（準備会）の事務局長より資料を基に第1回有料試験運行の結果および第2回有料試験運行の概要について報告。

(委員) 第2回有料試験運行に対するバックアップの内容について、具体的に教えていただきたい。

(「ぐるっと生瀬」運行協議会（準備会))

まず、委員自身が当該車両に乗車することが大切であると考えている。また、第1回有料試験運行後に行ったアンケート調査に基づいて自治会毎に懇談会を開いたり、地元小学校や中学校に出向き、当該取組みについて説明を行い、関心を高めていきたいと考えている。さらに、回数券の販売や掲示板で周知し、利用促進を図る予定である。

(委員) これまで自動車を利用して来た人が、バス等の公共交通を利用するようになることは、ライフスタイルの転換を意味する。それは、他人と関わる機会が増え、自分の周りの物事への関心が高まり、まちづくりの担い手を見つけていくことに繋がる可能性がある。従って、コミュニティ交通を利用してもらうことを目的に活動するの

も一つだが、従来と異なるライフスタイルを選択し、コミュニケーションを通じたまちづくりを担ってもらうことで、結果的にコミュニティ交通を利用してもらえるよう検討してみても良いのではないか。

(「ぐるっと生瀬」運行協議会(準備会))

コミュニティ交通が運行することでライフスタイルが変わることはあり得ると認識しており、また、外出率の向上や地域の活性化等、良い変化のきっかけとなるよう努力する。

(委員)

まず、地域活性化とコミュニティ交通の役割について、別々に整理されてはどうか。その上で、地域活性化を行うための方法はいくつかあると思うが、コミュニティ交通で担える役割は何かを整理されると、地域住民に対して当該取組みを分かりやすく説明できるのではないかと思う。また、コミュニティ交通は、移動手段の提供だけではなく、車内を共通の空間として使用できることから、お話し機会の創出等数値化できない効果や役割も担えるのではないか。

(分科会長)

「ぐるっと生瀬」運行協議会(準備会)としての利用促進について、役員の口コミや自治会をとおしての利用啓発を行っていくことは、市にも事業者にも出来ないことなので、ぜひ取り組んでいただきたい。また、コミュニティ交通を利用した経験が良いものであると認識してもらうことが地域の活性化にもつながると思うので頑張ってください。

(「ぐるっと生瀬」運行協議会(準備会))

コミュニティ交通の支持者や理解者、利用者を増やしていくことだけでも、地域が活性化していくと思う。さらに、コミュニティ交通を利用し、地域間のつながりが広がれば、地域はより元気になるのではと考えている。

なお、啓発だけではなく、試験運行の時刻表を地域に配ったところ、住民から反響があったので、今後もニーズは増えていくと考えている。

(委員)

市としても、引き続き、地域の皆さんの取組みについて、しっかりとサポートをおこなっていく。

(分科会長)

現在、総合交通戦略策定分科会において、総合交通戦略を策定しているが、行政・住民・事業者の三位一体の取組みが文章としてだけではなく、現実の取組みとして実現することを願う。

以 上